様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２２年４月１９日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2007 ～ 2010
課題番号：１９３９０５４６
研究課題名（和文）　教育ニード・学習ニードの診断結果に基づく看護継続教育支援システムの拡大と洗練
研究課題名（英文）Extension and Refinement of the Support System for Planning Continuing Education Program in Nursing Based on Assessment of Educational needs and Learning needs

研究代表者
舟島　なをみ（FUNASHIMA　NAOMI）
千葉大学・大学院看護学研究科・教授
研究者番号：００２２９０９８

研究代表者の専門分野：看護教育学
科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学
キーワード：看護継続教育,教育ニード,学習ニード,測定用具開発,保健師,助産師,訪問看護師

１．研究計画の概要

本研究は、保健師･助産師・訪問看護師各々の教育ニード、学習ニードを把握するための測定用具を開発し、測定結果を反映した看護継続教育プログラムの立案･実施･評価の実現に向け、既に開発された看護継続教育支援システムを拡大、洗練することを目的とする。システム拡大と洗練の究極的な目的は、全看護職者の職業的発達支援と国民への高品質な看護提供の実現である。この目的を達成するため、研究期間４年間に次の４項目の実現を目指す。

(1) 保健師･助産師・訪問看護師各集団の「学習ニード」を網羅するカテゴリを質的帰納的に開発し、そのカテゴリを活用し、信頼性･妥当性を確保した学習ニードアセスメントツール「保健師用」「助産師用」「訪問看護師用」の３種類を開発する。この尺度は、各集団もしくは個人の学習意欲の高さと要望する学習内容を特定する。

(2) 保健師･助産師・訪問看護師の各集団が知覚する「ロールモデル行動」を質的帰納的に解明する。その結果に基づき、信頼性･妥当性を確保した教育ニードアセスメントツール「保健師用」「助産師」「訪問看護師用」の３種類を開発する。この尺度は、各集団もしくは個人の現状とロールモデル行動として明らかになった各職種のより良い状態の乖離を測定し、教育が必要な程度と教育すべき内容を特定する。

(3) 保健師･助産師・訪問看護師用として開発された尺度による調査結果を用いて、対象集団の実情に適合する教育を看護継続教育機関が提供するための看護継続教育プログラム立案モデルを作成する。次に、看護継続教育機関において作成したモデルの有効性を検証する。

(4)尺度６種類の活用の意義と方法、判定基準、測定結果に基づき看護継続教育プログラム立案モデルを適用した個別性の高い教育プログラムの立案･実施･評価について成文化し、現行の看護継続教育支援システムの中に組み込む。

２．研究の進捗状況

(1)研究計画の概要(1)(2)に示したアセスメントツール開発の進捗状況

①「保健師用」：内容分析を用いて保健師の学習ニードを網羅する 32 カテゴリを開発、それを活用し尺度を作成した。全国調査により収集した 388 データを統計学的に分析し、信頼性・妥当性を確保した学習ニードアセスメントツール「保健師用」を開発した。

また、保健師が知覚するロールモデル 40 行動を解明、それを活用し尺度を作成した。全国調査により収集した353データを分析し、適切な質問項目を選定し、信頼性・妥当性を確保した教育ニードアセスメントツール「保健師用」を開発した。

②「助産師用」：保健師用と同様の方法を用いて、助産師の学習ニードを網羅する 30 カテゴリを開発、それを活用し尺度を作成した。全国調査により収集した670データを分析し、学習ニードアセスメントツール「助産師用」を開発した。また、助産師が知覚するロールモデル 40 行動を解明、それを活用し尺度を作成した。全国調査により収集した 619 データを分析し、適切な質問項目を選定し、教育ニードアセスメントツール「助産師用」を開発した。

③「訪問看護師用」: 訪問看護師の学習ニードを網羅する 28 カテゴリを開発、それを活用し尺度を作成した。また、訪問看護師が知覚するロールモデル 26 行動を解明、それを活用し尺度を作成した。

平成 21 年度末、全国の訪問看護ステーションを対象とした調査を実施し、尺度の信頼性・妥当性検証のためのデータを収集した。

(2) 研究計画の概要に示した(3)(4)の進捗状況

①対象集団の実情に適合する教育提供を目ざして、作成したモデルの有効性を検証するため、開発した尺度「保健師用」「助産師用」を用いてデータを収集中である。

②「保健師用」の学習ニードアセスメントツールと教育ニードアセスメントツールの活用の意義と方法、判定基準、測定結果の解釈について成文化し、著書「看護実践・教育のための測定用具ファイル第2版」に掲載した。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

平成 19 年度から平成 21 年度の３年間は、研究計画の概要に示した４項目(1)(2)(3)(4)のうち、(1)(2)に示した 6 種類のアセスメントツール開発を目標にしていた。現在、６種類のアセスメントツールのうち４種類、すなわち「保健師用」「助産師用」の学習ニードアセスメントツール及び教育ニードアセスメントツールを開発した。また、残る 2 種類「訪問看護師用」の学習ニードアセスメントツール及び教育ニードアセスメントツールも、必要なデータを収集し終え、分析を残すだけとなっており、ほぼ計画通りに進行している。(3)については、開発した保健師用及び助産師用のアセスメントツールを用いてモデルの有効性検証のためのデータ収集を開始している。(4)については、「保健師用」のアセスメントツールの活用方法などの成文化を終えている。

４．今後の研究の推進方策

最終年度に残された課題は、保健師・助産師・訪問看護師の看護継続教育プログラム立案モデルを構築し、看護継続教育支援システムの中に組み込むことである。この目標達成に向け、次の 3 項目を実施する。

(1) 平成 21 年度に収集したデータを分析し訪問看護師用の学習ニードアセスメントツール及び教育ニードアセスメントツールの信頼性・妥当性を検証し尺度を完成する。

(2)尺度を用いた調査結果に基づき、対象集団の実情に適合した教育を看護継続教育機関が提供するための看護継続教育プログラム立案モデルを作成する。また、保健師・助産師・訪問看護師用として作成した各モデルの有効性を検証する。

(3)保健師・助産師・訪問看護師用のアセスメントツール６種類の活用の意義と方法、判定基準、測定結果に基づき看護継続教育プログラム立案モデルを適用した個別性の高い教育プログラムの立案、実施、評価について成文化し、現行の看護継続教育支援システムの中に組み込む。

これらの研究の推進にあたっては、研究分担者及び連携研究者と連絡を密にとり、計画通りに研究を進めていく。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

① 横山京子、舟島なをみ、訪問看護師のロールモデル行動に関する研究、看護教育学研究、19(1)、11-21、2010、査読有.

② 村上みち子、舟島なをみ、保健師のロールモデル行動の解明、群馬県立県民健康科学大学紀要、第５巻、43-56、2010、査読有.

〔学会発表〕（計４件）

① Nakayama,T.,Funashima,N., Educational Needs of Midwives in Japan; Promoting Evidence-Based Professional Development, 2010 Pacific Institute of Nursing Conference, 2010 年 3 月 29 日（Honolulu）.

② 中山登志子、舟島なをみ、助産師の学習ニードに関する研究、第 40 回日本看護学会―母性看護、2009 年 8 月 6 日、佐賀市文化会館（佐賀県）.

③ 三浦弘恵、舟島なをみ、保健師の学習ニードアセスメントツールの開発、第 39 回日本看護学会－地域看護、2008 年 10 月 11 日（静岡県）.

④ Miura,H. Funashima,N., The Relationships Between Nurses' Perception of Quality of Home Health Care and Their Attributes in Japan, 18th International Research Congress of STTI, 2007 年 7 月 12 日, Vienna.

〔図書〕（計１件）

① 舟島なをみ監/著、医学書院、看護実践・教育のための測定用具ファイル第 2 版、2009 年、307 頁.